

「相続ということ」

「相続」という言葉を聞くと、どのようなことを思い浮かべますか？

多くの方が、遺産相続や相続税といったようなことを思い浮かべるのではないかと思います。財産や土地を次の世代にどう残していくのか、そんなことに悩んだこともあるかもしれません。私自身も、子どもが二人いますが、「この子たちが将来苦勞せずに生活できるように今頑張らないといけないな」と、そんなことを時折考えることがあります。

その「相続」という言葉は、仏教の言葉が語源となっています。仏教辞書を繰ってみますと、「相」という字は「すがた。かたち。ありさま」、そして「相続」とは「続いていくこと。連続して存在していくこと」とありました。

私たちは、自身を含めあらゆるものが変化し続ける諸行無常の世を生きています。その中で絶えず連続して存在してきたものがある。これを仏教は「相続」という言葉で伝え、真宗では「念仏相続」などと言ってきたのではないのでしょうか。

私たちは、普段何気なく仏さまに手を合わせています。しかし、その手を合わせている私の背景には、多くの人々が仏法に出会い、念仏申し、念仏をすすめてきたという、念仏の相続があるのです。

自分の人生で培ったことを、形として残していこうということは大切なことだと思えます。しかし、今ここに生きている私にまで相続されてきた念仏とその願いを、そこに連なる一人として確かめ続けていかななくてはならないのだと思います。

